

本時のねらい

ひろしとお父さんとの関係が、特製カレーライスの味の表現に関係していることに気づく。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ジャムボードを共有して共同編集することで、リアルタイムに全員と意見の共有ができ、読みを深めることができる。
- ・個人の判断でデジタル教科書と紙媒体の教科書を使い分け、学習活動を円滑に進めることができる。
- ・デジタルワークシートなので、自分に合うデザインに変更しやすい。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromecast
- ・デジタル教科書
- ・ジャムボード
- ・大型テレビ
- ・Google スライド
- ・Google フォーム

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (7分)	○めあて(問い)を知る。 「なぜ特製カレーはピリッと辛くてほんのり甘いのか。」 ○問いについての考えをグループで協働してジャムボードに入力することを理解する。【写真1】	・授業者が事前に用意していたジャムボードを、大型モニターに提示しながら説明する。
展開 (31分)	○グループで話し合いながら、物語全体を通したひろしとお父さんの気持ちや関係の変化、それに伴う味の表現の変化について考えたことをグループでジャムボードに入力する。【写真2】	・共同編集で、グループのみんなでひろしとお父さんの関係を時系列に並べ、整理する。 ・デジタルワークシートを使い、各グループに合ったデザインに変更する。 ・グループでの話し合いが行き詰まったときに他の班の考えを見ることができる。
まとめ (7分)	○各グループでまとめたものをもとに、学級全体で話し合う。 ○学級全体で問いの答えをまとめる。 ○Google フォームでふり返りをする。【写真3】	・ジャムボードで確認しながら自分の考えを発表することができる。 ・ふり返りの内容がデータで集まるので、学習記録の管理がしやすい。

1人1台端末を活用した活動の様子

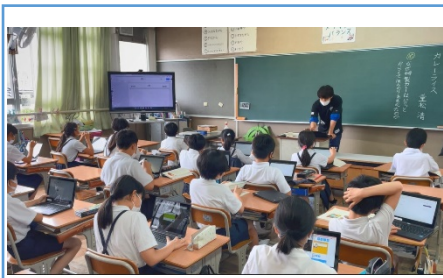


写真1 ジャムボードを大型テレビに投影しながら活動の流れを説明している場面

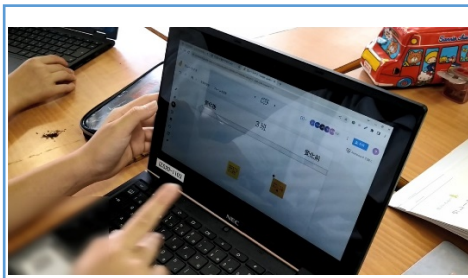


写真2 グループで話し合い活動をしている場面

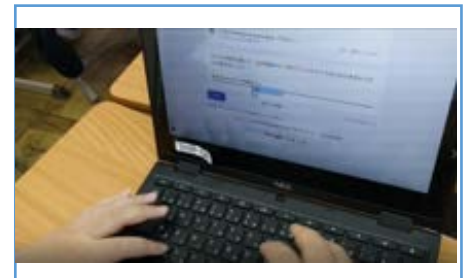


写真3 Google フォームでふり返りをしている場面

児童生徒の反応や変容

- ・ジャムボードに意見を打ち込むので、考えが視覚化され、学習への参加意欲が高まった。
- ・視覚化された考えを随時整理できるので、話し合いが活発かつ円滑に進んだ。
- ・ジャムボードは他のグループの意見も見られるように共有していたので、話し合いが止まったときには、他のグループの意見も参考にできていた。
- ・日々のICT活用の積み重ねで、タイピングの速度が向上し、学習効率が飛躍的に向上した。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・児童1人1人がデジタル教科書、ジャムボードを使用することで、物語全体を通したひろしとお父さんの気持ちや関係の変化、それに伴う味の表現の変化が、視覚的に捉えやすくなった。
- ・共有の機能を使うことで、学び合える環境を拡張できた。